

## 実践3 地域ぐるみの防災教育(避難訓練)の取組

## 第四中学校の取組

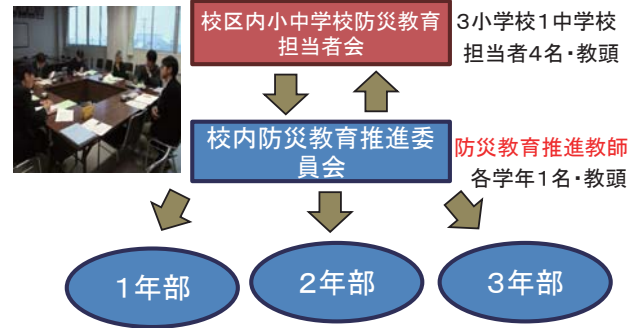
## 1 目的

・洪水から命を守る意識と技能の育成

・水の恩恵 ～郷土を愛する心の醸成～

三条市 日本三大鍛冶 日本三大植木地  
越後平野の稲作 河川交通の要衝の地

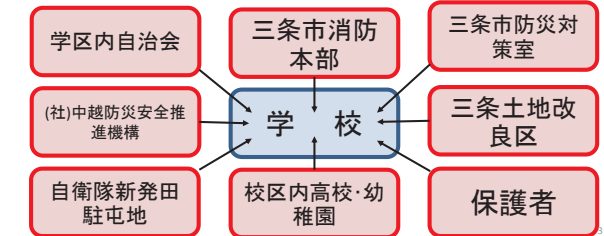
## 2 防災教育の校内体制



2

## 3 小中合同防災訓練の実施

- ・平成25年度 中学校で洪水災害を想定した防災訓練を実施
- ・平成26年度 中学校校区内3小学校・1中学校合同の洪水災害を想定した防災訓練を実施



## 4 防災訓練の内容

- (1)実施日  
平成26年10月15日(水)
- (2)実施内容  
午前の部  
防災技能訓練  
午後の部  
洪水想定避難訓練

小中の子どもたちが一緒に避難訓練



## 5 防災訓練の成果

平成26年7月9日(水)大雨洪水警報 三条市内全学校臨時休

「その時生徒は？」

- ・冠水した道路を通行しようとした人に注意した。
  - ・家に誰もいなかったので祖母の家に避難した。
  - ・ラジオで情報を得た。・市のHPを見て状況を確認した。
  - ・避難を想定して精密機械類は2階に上げた。
  - ・家族で決めていた緊急時の連絡方法で安否を確認した。
  - ・避難道具を準備した。
- ……… 避難行動を取った生徒 約75%
- その他 32% 情報を理解し行動は早いと判断した

5

## 三條市立第四中学校 環境・安全プロジェクト

## 防災教育

学校教育目標 豊かな心を持ち、積極的にやりぬく生徒

## 重点目標

- ・自然災害等の危険から自らの命を守りぬく主体的な行動力を育成する。
- ・家庭や地域と連携しながら、地域の特性を理解し、地域に積極的に関わろうとする態度を育成する。

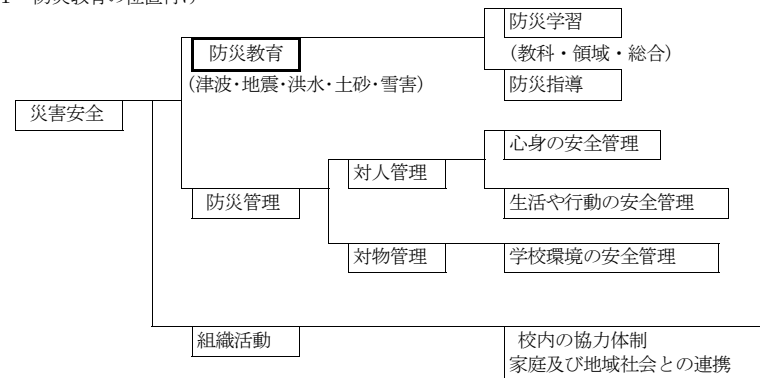
## 防災教育が目指す生徒像

- 防災についての基礎的・基本的知識を理解し、考え・判断する力、行動する力を高めさせることによって防災について適切な行動ができる生徒。
- ・災害時の現状や原因及び減災等について理解を深め、災害に対して、的確な考え方や判断に基づく適切な意志決定や行動選択ができるようにする。また自らの安全を確保できるようにするとともに、安全な備えができる生徒。
  - ・自他の生命を尊重し、安全な社会づくりの重要性を考え、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できる生徒。
  - ・自然災害では、想定した被害を超える災害が起こる可能性があるため、自ら危険を予測し回避するために、的確に判断し迅速な行動がとれる生徒。

## 防災教育の推進にあたって

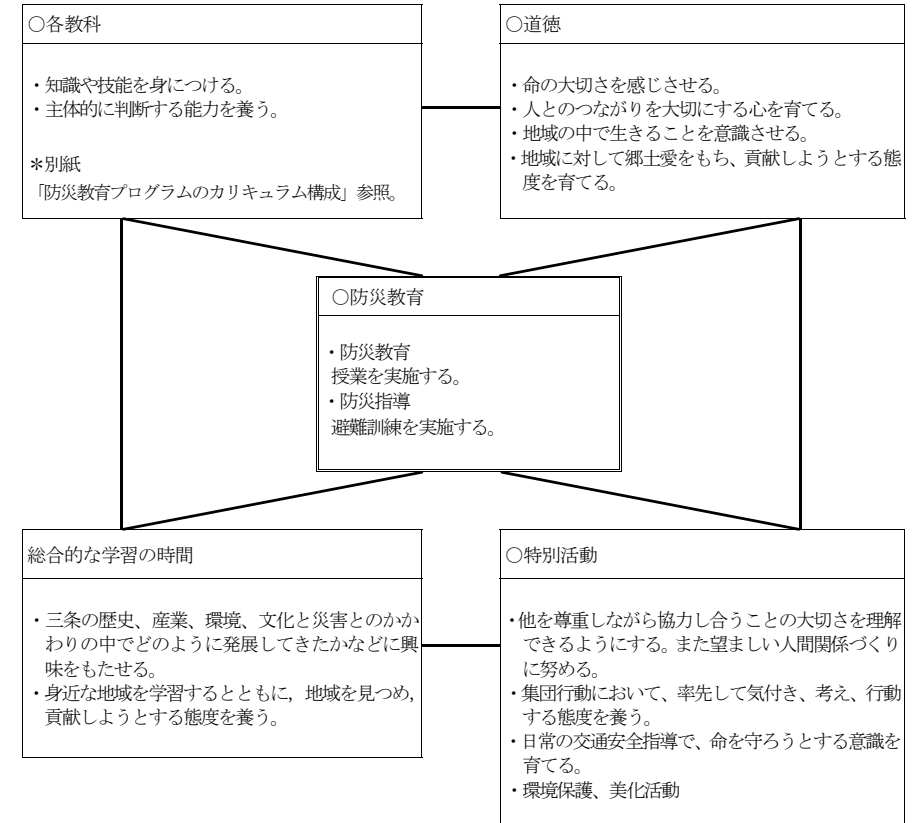
災害発生時に、自分の命を守るためにどう行動すればよいのか、災害発生後自分たちに何ができるのかなど、災害の内容を正しく判断し行動できる生徒を育てる。さらに家族や地域の人たちと連携しながら、地域の防災力を高め、地域を大切にできる心を育てる。

## 1 防災教育の位置付け



『「生きる力」を育む防災教育の展開』文部科学省より

## 2 防災教育と各教科・領域との関連構造図



## 3 指導の重点

- ・災害についての基礎的・基本的知識を理解し、常に安全を確保する態度を養う。
- ・災害が発生した場合、人的・物的被害を最小限にいとめる技術・態度を養う。

## 4 具体的方策

- ・災害時に避難が適切に行われるように、年3回の避難訓練（火災、洪水、地震）を実施する。
- ・各教科・領域で防災教育を実施し、基礎的・基本的知識や避難方法等の指導を徹底する。
- ・災害発生時に迅速に対応できるように職員・生徒の分担・任務を明確にする。

## 5 防災に対する基本姿勢

- ・職員、生徒及び学校使用者は、常に防災教育に努める。
- ・災害が発生した場合は、被害を最小限にとどめるために、職員がそれぞれ担当の任務の遂行にあたる。
- ・生徒が在校中に災害が発生した場合は、生徒の生命保全をすべてに優先させ、避難要項により脱出避難に万全を期す。
- ・生徒の避難が適切になされ、また、職員の分担任務が確実になされるように避難訓練を行う。

## 6 防災組織

- ・地区班担当の責任者をおき、平素から防災教育に努める。
- ・主に火災・地震・洪水発生時に備えて常時次の係をおき、任務の熟知と訓練を図る。

係	任務	職員	生徒
本部	学校防護全般にわたる指示・連絡・指揮・関係機関への連絡	◎校長・教頭・清田	
誘導	生徒の避難誘導(学校内外) 避難所での生徒の管理	◎山崎・佐藤(秀)・野村・齋藤・坂田	学級委員
初期対応	火災：消火器による初期消火 地震：生徒の身の安全を確保 洪水：校区内の実態把握	◎阿部・有坂・松枝	
救護	負傷者の応急処置	◎古山・古市・長沼	保健委員の2、3年生
搬出	重要書類、物品等の搬出及び管理	◎佐藤(伸)・高橋田邊・本間	3年生の男子
避難所支援	避難者への支援、避難所の支援	◎教頭・全職員	2、3年生男女

## 7 防災訓練計画

回	期 日	想 定	内 容
第1回	5月20日(火)	火災発生時の避難訓練	・火災発生時の避難に関する指導を実施する。
第2回	10月15日(水)	洪水発生時の避難訓練	・洪水発生時の避難に関する指導を実施する。
第3回	1月15日(木)	地震発生時の避難訓練	・地震発生時の避難に関する指導を実施する。

## 8 防災教育の評価

## 評価の観点

## ① 指導計画についての評価

- ・職員評価と地域(自治会)からの評価

## ② 生徒の変容についての評価

- ・避難訓練等の際、アンケート調査により避難に関する方法や考え方など理解できていたか。(知識)
- ・生徒が日常生活や災害時の危険を察知し、安全な行動を判断できるようになったか。(判断)
- ・自らの安全を確保しつつ、地域の方々や他者の安全を考え、率先して働きかけたり、迅速に行動できたりという態度を養うことができたか。(行動)

## 平成26年度四中防災教育プログラムのカリキュラム構成

○：プログラムに基づいて授業を展開する。(県からの指導案)

●：防災を意識した授業構成を工夫する。

略案、ワークシート等はH26→3研修→0研修→校内研修→防災教育→各教科略案 に保存。

ファイル名の例：④英語「体調を尋ねる」、⑨自作振り返りシート

教科	防災教育カリキュラムの全体構成番号	単元名、手順等
国語	なし	
社会	⑧→2年5月 ③→1年12月 ②→2年12月 ⑩→3年1～2月	⑧→新潟県防災教育プログラムの指導案で授業を行う。 ②、③ →地理「世界からみた日本のすがた」 ⑩ →「地方自治」が「安心して暮らせる社会」
数学	①→1年、6月	2章文字式
理科	③→1年7月 ①→1年7月	・「変動する大地」第1章ゆれる大地～地震～ ・地震の単元(全8時間)の中で、学級単位に、新潟県防災教育プログラムの指導案で授業を行う。(＋1時間増やす)
音楽	④→3年11月	・「曲のよさをプレゼンテーションしてみよう」 ・自作の指導案、元気のでる曲、勇気のでる曲、心を癒やす曲、どんな音色か。リズムや速度はどんな感じか。
美術	⑤⑦→1年9～10月	・「文字や形で伝える」[標示] ・自作指導案…「プログラムに基づき学習した防災についての学習内容を振り返らせる」「⑤、⑦項目について、話し合ったり考えをまとめたりして構想を練る」「防災に役立つ標示の制作」「評価を行う」
保体	④→2年、12月 ⑤→1～3年 11～12月	・新潟県防災教育プログラムの指導案に、関連する教科内容を加えて授業を行う。
技家	③→技、7月 ④→家、7月	・教科に関連する内容を加えて行う。
英語	⑨→2年、1月 ④→6月	⑨→「様々な雪の災害から対策を考える」 新潟県防災教育プログラムの指導案。 ④→Word Tree「病気、けが」「体調を尋ねる」 活動プリントを自作する。
総合 1年	⑤→6～7月	⑤→「防災について知る」 ・防災委員会からの指導案で行う。
総合 2年	⑥→6～7月	⑥→「避難できない人間の心理を理解する」 ・防災委員会からの指導案に、教科に関連する内容を加えて行う。
総合 3年	⑦→10～11月	⑦→「自然と向き合い、防災に取り組む姿勢を学ぶ」 ・防災委員会の指導案にもとづいた授業を行う。
学活 1年	②→7月	②→「津波からの逃げ方」 ・新潟県防災教育プログラムの指導案で行う。
道徳 3年	⑩→6～7月	⑩→雪のボランティア活動について考える」 ・防災委員会からの指導案で行う。

【自治会用】

平成26年度 小中合同防災訓練(洪水)について

第四中学校区防災教育推進委員会

## 第四中学校防災教育(洪水) 各教科・領域関連内容

教科	学年	単元	各教科・領域関連内容
国語	1年	ニュースの見方を考えよう 話し合いで理解を深めよう	災害の際の新聞記事による描写と実際を考える。 災害をテーマにしたグループディスカッションを行う。
	2年	説得力のある提案をしよう	「家庭での防災対策」はどうあるべきかななどのテーマで提案を考える。
社会	1年	環境などの環境問題を調べる 日本列島の自然災害	・バングラデシュは、川が多く流れる三角洲に位置しているため、雨期には水かさが増して国土が水に覆われる。 ・日本の災害の特徴を知る。
	2年	資源とエネルギー 短くて急な日本の河川 四季のあるモンスーン 米作りの条件整備 身近な地域 自然のもたらす災害を克服する 多様な環境に恵まれた地域(九州)	・水資源の活用、水力発電。 ・用水路や排水設備の整備、水田単作地帯。 ・日本の川は世界の川と比べて急流。 ダム …洪水を防ぐ役割と下流の海岸の浸食。 ・日本の多くの地域は、年間を通じて降水量が多い温暖湿潤気候に属する。台風やモンスーンについて ・洪水用ハザードマップの作成について安全意識の向上、日頃からの備え。 ・越後平野が水田単作地帯となった理由。・地域の危険性。 ・自然災害と防災、ハザードマップ。・ハザードマップの活用。 ・洪水と治水対策。・気候災害。・温暖な気候と台風。
	3年	国際社会が抱える課題 「生命の星」地球を守るために地球温暖化とその影響 防災コミュニティづくり	・「持続可能な発展」先進工業国を中心にすすめられた、経済の開発・発展は、かつてないほどの豊かな社会を実現しました。しかし、そのために、世界的な経済格差や環境破壊と資源の減少が進んだ。 ・地球全体の温度が上昇→世界各地で気候が変動し、台風や豪雨が増える一方、干ばつによって食料や水が不足する地域が出ている。 ・地域で行う防災活動。
数学	1年	関数	1時間にammの割合でx時間雨が降ると、降水量はいくらになるか。
	2年	関数 資料の整理	降水量や被害の表・グラフなどから特徴を読み取る。
理科	1年	B-2 第3章 大昔を語る大地～地層～	・流水のはたらきについて理解する。
	2年	B-4 第1章 大気をめぐる水 第2章 天気の変化 第3章 日本の天気	・地表における水の循環、雲の発生するしくみを理解する。 ・雲の変化と天気の変化の規則性を理解し、天気図からの気象の変化を予測する。 ・日本に影響を与える気団や気圧配置をもとに、日本の天気の傾向を理解する。
	3年	最終単元 第1章 自然と人間	・水をめぐりつりあいについて理解を深める。 ・自然の恵みと災害の関係について理解を深める。 ・自然災害、洪水について理解する。
美術	1年	文字や形で伝える	避難所、危険箇所等、防災にかかわるマークや標示の学習
	2年	「伝え合う」かたち	危険箇所などを伝える標示づくり
	3年	「伝え合う」かたち	防災意識を高めるポスター標示づくり
保健体育	全学年	集団行動、水泳、救助法、 健康、安全	集団行動、着衣水泳、救助法、プール清掃時に水の中を歩く体験、バケツリレー、心肺蘇生の手順 欲求不満やストレスへの対処、自然災害への備え、応急手当、健康の成り立ち
技術・家庭	全学年	エネルギー変換に関する技術(2年) 情報の技術とその役割 任生活と自立	手回し発電機による充電式LEDライト付ラジオの製作 避難に関する情報についての的確に判断し行動する。 避難場所が必要なものは何が、快適な生活空間。お年寄りや体の不自由な方々のための食事。頭巾などの制作。
英語	全学年	語句指導 身近な表現	自然災害に関する英単語とその用法 避難指示に関する英語表現 避難している人たちに的確に伝えるための例文

## 1 洪水を想定した防災訓練の目的

- ・ 洪水の恐ろしさを学習し、訓練の大切さを理解する。
- ・ 洪水発生に対して対応・避難方法を身につけ、自己と他者の安全を図る。

## 2 日時

平成26年10月15日(水) 午後1時30分～午後4時30分

## 3 想定および参加児童生徒数

想定) 記録的な豪雨があり、校区内全域で危険な状況が予想される場面を設定する。  
参加児童生徒数) 児童：506名 生徒：290名 計 796名

## 4 当日の日程

13:30～14:15 児童生徒帰宅

※教師は担当する避難場所へ向かう。

避難勧告発令(防災無線で一斉放送)

児童生徒はあらかじめ登録した「避難場所」へ移動する。

〔避難場所〕

- ① 第四中学校 ② 井栗小学校 ③ 保内小学校  
④ 旭小学校 ⑤ 塚野目保育所 ⑥ 三条東高校

～14:50 全員避難場所集合完了

15:00～15:30 避難箇所確認 ※地域の方から危険箇所を説明していただく。

15:30～ 児童生徒帰宅

## 5 避難方法(予定)

防災無線で避難勧告を聞いたら、近所の集合場所に集まり、小学校の登校班を母体とした小・中のグループを作る。小学校の班長は児童の人員確認をして、中学校の班長は中学生の人員確認をする。(小学校区の実態で対応は変えても良い)

全員そろったら、指定された避難場所へ縦1列になって移動する。小学校区の対応に応じて、中学生が列の前後に分かれ小学生を避難誘導するなど、交通安全に十分配慮する。

## 6 自治会へのお願い

- ① 15時からの地域の危険箇所確認の時間に児童生徒に地域の案内をお願いしたい。
- ② 約800人の子どもが自宅から避難箇所まで移動するので、地域の各所に立っていただき避難する様子を見ていただきながら安全確保にお力を貸していただきたい。

どうか一人でも多くのご協力をお願いします。

## 平成 26 年度 小中合同防災訓練(洪水)実施大綱

## 第四中学校防災教育推進委員会

## 1 洪水を想定した防災訓練の目的

- ・ 洪水の恐ろしさを学習し、訓練の大切さを理解する。
- ・ 洪水発生に対して対応・避難方法を身につけ、自己と他者の安全を図る。

## 2 日時

平成 26 年 10 月 15 日(水) 午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分

## 3 想定

信濃川の水位が上昇し、校区内全域で危険な状況が予想される場面を設定する。

細かな想定はしない。洪水災害はケースバイケースでの個々の対応が求められ、各人が一様の対応はできない。したがって、細かな想定にしまうと、全体としての訓練はできなくなる。そこで、何らかの原因で校区内全域で全員が避難しなければいけなくなったという想定で避難訓練を実施する。

## 4 指導の流れ (事前指導内容を含む)

## (1) 事前指導

- ① 当日までに各学校で新潟県防災教育プログラム洪水編の指導をしておく。
- ② 予め各家庭にプリントを配り、洪水等の緊急避難時にどこへ避難するか各家庭で話し合ってもらい、その場所を報告してもらう。生徒、教師とも、どこへ避難するか確認しておく。  
※学級担任は、児童生徒の避難場所一覧表を作っておく。
- ③ 中学生は避難する際に必要だと思われる物品を 3 点考えさせる。

## (2) 当日の日程

11:35～12:20 防災訓練

## 防災訓練担当団体と内容

三条市防災対策室	・防災無線(訓練開始合図)・防災技能講習 (井栗小学校)
三条市消防本部	・防災技能講習・災害時機材紹介
防衛省(自衛隊)	・災害時機材紹介・活動内容講演 (第四中学校)
(公社)中越防災	・ゴミ袋で作る雨具 (旭小学校)
(株)野村防災	・洪水想定セイフティー迷路 (保内小学校)

13:15～13:30 終学活

13:30～14:15 全校児童生徒帰宅

※教師は担当する避難場所へ向かう。

14:15

避難勧告発令(防災無線)

児童生徒はあらかじめ登録した「避難場所」へ移動する。

〔避難場所〕※三条市指定災害時第 1 次避難所

- ① 第四中学校 ② 井栗小学校 ③ 保内小学校 ④ 旭小学校  
⑤ 塚野目保育所 ⑥ 三条東高校

15:00～16:00 危険箇所確認 ※避難所ごとに実施

16:10～ 児童生徒帰宅

## (3) 「避難場所」での動き

- ① 児童生徒は避難場所で担当教師から評価用紙を受け取り、到着時間を確認して所定の設問に回答する。持ってきた避難グッズを担当教師に見せる。  
※児童生徒が来なかった場合、担当教師は各校(教頭)に電話連絡を入れる。本部から指示を受けた教師は、該当児童生徒の所在を確認し、本部に連絡する。
- ② 各箇所でグループごとに危険箇所確認をする。地域の方から案内してもらい、小中教師は各グループに付き合う。
- ③ 危険箇所確認が終わったグループから児童生徒がまとまって帰宅する。
- ④ 16:30 までには 終了。評価用紙の記入を宿題にして翌日回収する。

## 5 避難方法

防災無線で避難勧告を聞いたなら、近所の集合場所に集まり、小学校の登校班(特設班)を母体にして小・中のグループを作る。小学校の班長は児童の人員確認をして、中学校の班長は中学生の人員確認をする。(小学校区の実態で対応は変えても良い)

全員そろったら、指定された避難場所へ縦 1 列になって移動する。中学生が列の前後に分かれ小学生を避難誘導するなど、交通安全に十分配慮する。

学区外児童生徒は学校で待機し、危険箇所確認から参加する。

## 6 職員の役割分担

- (1) 拠点本部・各校本部 : 各校校長、教頭、防災担当  
※拠点本部は涉外、各校本部は児童管理を主として行う。
- (2) 避難場所、自治会、消防、警察への連絡 : 四中教頭
- (3) 全体指導 : 防災担当
- (4) 避難所での確認、児童生徒管理 : 各分担当所の教師
- (5) 点呼集約 : 各校教頭
- (6) 評価 : 防災教育推進委員会

※拠点本部は四中に置き、各校に各校本部を置く。

## 7 当日までの流れ

- 6月25日(水) 校区校長会で実施大綱の検討  
6月30日(月) 第1回小中一貫防災担当者会議(計画の確認)  
～11日(金) 関係機関への協力要請完了(内諾済み)  
9月1日(月) 保護者向け避難訓練実施の告知(同一文書発送)  
9月10日(水) 第2回小中一貫防災担当者会議(避難場所別名簿作成)  
10月1日(水) 関係者全体会議(学校・自治会・市担当者・自衛隊・消防)  
10月10日(金) 第3回小中一貫防災担当者会議(最終確認)

平成26年10月15日

第四中学校区小中合同防災訓練

# ぼうさいくんれん ふ がえ 防災訓練振り返りカード

第四中学校 年 組 番 氏名

到着時刻 (ひなんじよについたじかん)	：			
おうちの人と話し合っ <small>て</small> 避難所を決めたり、持ち物 <small>を</small> 用意したりしましたか。	○	△	×	
中学生や上の学年の人の言うことを聞いて、避難 <small>を</small> することができましたか。	○	△	×	
安全に気をつけて、道を歩 <small>く</small> ことができましたか。	○	△	×	

【メモ】～気づいたことをかきましよう。

.....

.....

.....

.....

.....

.....



◆地域の危険箇所の確認でわかったことをかきましよう。

.....

.....

.....

.....

.....

◆防災訓練で学んだことをかきましよう。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....



～よくじつ、担任の先生に提出しましよう～

平成26年10月15日実施

第四中学校区小中合同防災訓練

## 振り返りカード

第四中学校 年 組 番 氏名

## 1 避難所到着時刻

出発時刻 午後2時15分 到着時刻 午後 時 分

所要時間 分

## 2 持参した物

--	--	--

## 3 行動評価

1：できた 2：まあできた 3：あまりできなかった 4：できなかった

- ① 持ち物はよく考えて持ってくる事ができた。 

--	--	--	--
- ② 下級生や小学生の安全に気を遣い避難できた。 

--	--	--	--
- ③ 私語などせず真剣に行動できた。 

--	--	--	--
- ④ 地域の方にしっかりあいさつすることができた。 

--	--	--	--
- ⑤ 地域の人のお話をしっかり聞くことができた。 

--	--	--	--

## 4 非常持ち出し物について気が付いたことは何ですか。

--

## 5 地域の危険箇所についてわかったことはなんですか。

--

## 6 午前中の防災訓練について学んだことは何ですか。

--

## 7 今日1日の防災訓練の感想

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

※明日の朝、忘れずに学級担任の先生に提出しましょう！